

事業名

三鷹市快老プロジェクト事業

評価項目

| No | 項目 | 記入欄 内容が分かるように、200字以上～300字以内で簡潔にまとめて記載してください。 | 自己採点 |
|----|------|--|------|
| 1 | 成果目標 | 高齢者モニター（傾聴対象者）は20人が目標。また、傾聴士養成は35人が目標。達成状況：モニター11人、傾聴士養成45人。傾聴士養成は目標より達成状況が高いものの、高齢者モニターの方は達成状況がやや低い。モニター確保の大部分は神田川町会長が担った。医療機関からもモニターの紹介を受けた。当初見込みよりも、医療機関及び地域包括支援センターからのモニター紹介が少なかったことが目標の達成状況に影響した。詳細は報告書p4～6を参照。 | 3 |
| 2 | 市民性 | 傾聴士養成講座は、受講者を介護職経験者や市民後見人受任を目指す人等に限定したが、2回で45名が受講し当初目標を上回った。これは傾聴士養成講座の意義や内容が市民に評価されたからであると思われる。また、対象者と傾聴士をマッチングする茶話会を3回開催し合計60人の参加があった。モニターによる利用者評価では、モニターの全員が、町会所属の傾聴士と話すことが楽しい及びその傾聴士と信頼関係が築けたと回答した。神田川町会においても見守り体制が充実し地域の交流が深まったとして評価は高い。詳細は報告書p5, 7～8を参照。 | 4 |
| 3 | 波及効果 | 第一に、町会が傾聴活動に取り組むという仕組みであり、それによって、一人暮らし高齢者等の見守りが充実したことである。隣近所で顔を見知っていても、会話をする機会がこれまでほとんどなかったが、町会メンバーが傾聴士となり、訪問やテレビ電話での会話を重ねることで、モニターの生活状況や健康状態等が把握できるようになった。第二に、訪問とテレビ電話の両方による傾聴という仕組みであり、テレビ電話も利用することで、コミュニケーションを取る機会が増えた。(株)まちづくり三鷹との連携事業として「三鷹市コミュニティ創生プロジェクト支援業務（総務省の事業）」にテレビ電話による傾聴が採用されたことは、モデルとしての有効性が高いためと考えている。報告書p14～15を参照。 | 4 |
| 4 | 継続性 | 神田川町会では、地域包括支援センター等と協力し「向こう三軒両隣の見守り活動」として、平成25年度以降も、町会の傾聴士がモニターの見守り・傾聴を続けていく。多摩東成年後見の会では、モニターより、家族の後見人受任依頼があり、受任に向け手続きを進める。また、鷹ロコ・ネットワーク大楽は、(株)まちづくり三鷹との連携事業 | 5 |

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

| | | | |
|---|-------------------------|---|---|
| | | <p>として「三鷹市コミュニティ創生プロジェクト支援業務（総務省の事業）」、地域包括支援センター及び医療機関から紹介を受けた要支援高齢者への傾聴士派遣を継続するとともに、三鷹市のがんばる地域応援プロジェクト事業に申請し、下連雀地区の親和会町会と協力して、TV電話端末を利用した傾聴・見守り事業を平成25年度中に実施する予定である。詳細は報告書p15を参照。</p> | |
| 5 | <p>マルチステークホルダー・プロセス</p> | <p>傾聴士養成の目標を上回ることができたのは、三鷹市、神田川町会及び多摩東成年後見の会などが協働し、適任者の確保ができたからであり、養成講座の企画運営は鷹ロコ・ネットワーク大楽が主導したが、1団体のみでは目標達成は難しかった。モニターの選定でも、町会を中心に協議体内外の団体と連携することができた。また、見守り・傾聴活動をスムーズに行うには、相互の信頼関係構築が不可欠である。実績検討会等での情報共有、茶話会での交流のほか、傾聴活動の課題や機器トラブルの解決のため アイ・コミュニケーション、早稲田大学地域社会と危機管理研究所などが専門・特技を生かして問題解決にあたり、傾聴活動を展開できた。詳細は報告書p3～4を参照。</p> | 5 |

合計点

21

ランク

S